

ここで紹介するニュースは、ほとんどの場合、日頃からOS・アプリケーション・アンチウイルスのデータベース等を常に最新の状態に保つこと、併せて、UTM導入等によるネットワーク全体の防御を行うことで対策できます。

●カーシェア大手、不正アクセスにより個人情報最大660万件流出…免許証画像等も

<https://www.asahi.com/articles/ASV9X2GDMV9XULFA01FM.html>

<https://share.timescar.jp/news/2026/0929/1816.html>

<https://piyolog.hatenadiary.jp/entry/2026/09/28/214857>

<https://ai.itokoba.com/security-tier/list/>

<https://www.jpcert.or.jp/at/2026/at260030.html>



このニュースをザックリ言うと…

- 9月25日(日本時間)、パーク24株式会社より、グループのタイムズモビリティ社が運営するカーシェアリングサービス「タイムズカー」のシステムが不正アクセスを受け、同サービス会員の個人情報が流出したと発表されました。
- 10月9日現在の続報等によれば、タイムズカー等の会員アカウント(入会未了者および退会者含む)最大約660万件分の氏名・住所・生年月日・電話番号・メールアドレス・パスワード(復元できない形式で保管)等の他、約160万件については、運転免許証・現住所確認書類・学生証・家族確認書類等の本人確認書類の画像も流出したとしています(なおクレジットカード情報は保有していないため対象外とのことです)。
- 不正アクセスは9月25日午前9時過ぎに検知され、翌26日午前7時頃に遮断を行ったとしています。
- タイムズカーの事案以降、国内多数の大手企業・サービスにおける不正アクセス・個人情報流出の発表が明らかに頻発しており、10月8日にはJPCERT/CCから注意喚起が出されています。

AUS便りからの所感等

- 本人確認書類が流出の被害を受けたことについて、パーク24社では法人税法上の原則7年間の保管義務に基づいて保存していたとする一方、なりすまし・問合せ対応の名目で退会済み会員も含めた個人情報・免許証画像をも保存していたこと、入会未了者の情報も削除せずに保持していたとみられることがさらなる被害範囲の拡大に繋がっており、各種個人情報や書類について、最初から収集すべき範囲、保持すべき内容、また古い情報を計画的に破棄する体制を厳密に取り決めることが重要です。
- また流出した券面の悪用によるなりすましで金融関係等の不正な契約が行われる恐れへの指摘もありますが、2027年4月の犯収法改正による券面画像での本人確認の原則廃止およびICチップ読み取りによる確認の義務付けを控えており、このようななりすまし行為を効果的に防止できるか、また施行前に前倒しでどこまで対応されるか等も注目されます。
- その他の事案においても、複数の企業から委託を受けていた業者、あるいは大手クラウドサービス企業が攻撃を受けたことにより、連鎖的な被害が発生した事例が多く確認されており、またJPCERT/CCの注意喚起ではいくつかの不審なアクセス元の情報や、侵入経路の傾向についての情報がまとめられていますので、特にシステム管理者等におきましては情報を十分に読み込み、今回特にターゲットとされるAPIへの不正アクセス対策から、各種汎用的な対策まで順次実行していくことが肝要です。

朝日新聞

「タイムズカー」で個人情報最大660万件漏洩 運転免許証画像など

2026年9月28日 16時45分

吉田貴司



✉ f X B! ...



タイムズのカーシェアリングサービスの看板。2026年9月28日午後4時、東京都墨田区、小川聡仁撮影



カーシェアリングサービス「タイムズカー」の運営会社を傘下に持つパーク24は28日、不正アクセスがありタイムズカー会員の個人情報最大約660万件漏洩(ろうえい)したと発表した。

パーク24によると25日午前9時過ぎ、タイムズカーを運営するタイムズモビリティのシステムで不正アクセスが検知された。調査したところ、第三者による個人情報の不正取得を確認したため、翌26日午前7時25分ごろまでに通信を遮断したという。

●8月度フィッシング報告件数は82,338件…4ヶ月ぶり増加

<https://www.antiphishing.jp/report/monthly/202608.html>

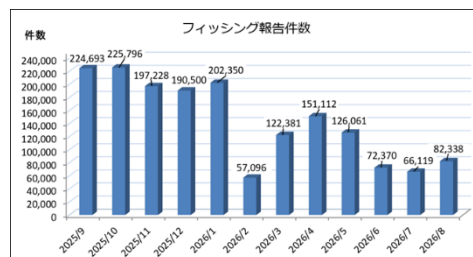
このニュースをザックリ言うと…

- 9月18日(日本時間)、フィッシング対策協議会より、8月に寄せられたフィッシング報告状況が発表されました。
- 8月度の報告件数は82,338件で、7月度(<https://www.antiphishing.jp/report/monthly/202607.html>)の66,119件から16,219件増加しています。
- フィッシングサイトのURL件数は39,800件で7月度(43,267件)から3,467件減少、使用されるTLD(トップレベルドメイン名)の割合は.comが最も多く約79.3%、以下.info(約6.5%)、.cn(約4.6%)、.shop(約1.8%)、.net(約1.5%)等となっています。
- 悪用されたブランド件数は96件で7月度(101件)から5件減少、最も報告が多かったブランドはAmazonが約26.1%、次いでApple(約16.1%)、ANA(約12.5%)、セゾンカードおよび統計局を騙ったものと合わせて約69.9%、さらに1,000件以上報告された10ブランドまで含めると約83.8%となっています。
- フィッシングメールの発信元はクラウドサービス(サービス毎ではMicrosoft Azure・BytePlus・Google Cloudの順)が併せて約85.0%を占め、国別でもアメリカ、次いでシンガポールが多い傾向が7月度から続いている一方、中国・ブラジル等の一般向け回線とみられるIPアドレスからの発信も増加傾向にあるとしています。

AUS便りからの所感

- フィッシング報告件数は4ヶ月ぶりに増加に転じており、9月度も引き続き増加して10万件を超える可能性も考えられます。
- フィッシングメールの文面をAIで生成することも既に珍しくなく、生成指示プロンプトが本文に残ってしまっているケースも報告されているものの、不自然ではない文体等で騙され得る可能性は高くなるとみられます。
- 差出人名や件名において左右逆の表記をとるケース、Unicodeの不可視文字・制御文字を単語の間に埋め込むケースも以前から多く、このようなものはHTMLで表示するときれいな体裁となるのが指摘されており、機械判定において迷惑メールで良く使用されるパターンとして積極的に登録されることを期待したいものです。
- 消費者向けに対するまとまった対策情報として「今すぐできるフィッシング対策(<https://www.antiphishing.jp/consumer/antiphishing-for-users.html>)」が同協議会から公開されており、フィッシングを中心としたPC・スマホ・各種サービスアカウントの保護のための設定や行動の参考とするのが良いでしょう。

フィッシング対策協議会
Council of Anti-Phishing Japan



●10月の「パッチチューズデー」…MS製品の修正脆弱点4桁に

<https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2147852.html>
<https://www.microsoft.com/en-us/msrc/blog/2026/10/202610-security-update>
<https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2147956.html>
<https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2147982.html>

このニュースをザックリ言うと…

- 10月14日(日本時間)、マイクロソフト(以下・MS)より、Windows・Office等同社製品に対する月例のセキュリティアップデートがリリースされています。
- Windowsの最新バージョンはWindows 11 24H2・25H2・26H2 KB5127648(ビルド 26100.9711・26200.9711・26300.9711)等となります。
- MS製品で修正された脆弱点は引き続き過去最大規模となり、CVEベースでは1,413件と4桁を突破しています。
- いわゆる「パッチチューズデー(米国時間での第2火曜日)」にあたるこの日はAdobe社各製品や、Google Chrome 155.0.8059.80、Firefox 158.0等、セキュリティ修正を含めたアップデートが集中しています。

AUS便りからの所感

Impress Watch

- 修正された脆弱点のうち76件において危険度が4段階中最高の「Critical」とされ、またそれ以外でもパッチ公開前の時点で悪用が確認されたものと詳細が一般に公開されたものがそれぞれ1件あるとしています。
- Windows 11 24H2は今回が最後のアップデートとなり、9月末にリリースされた26H2へのアップグレードが推奨されています。
- パッチチューズデー以外でのセキュリティアップデートとしては例えば10月6日に7-Zip 26.04(脆弱点の詳細は未公開)、同7日にWordPress 7.1.3、同16日はChrome 155.0.8059.85がリリース、また21日にはJava等Oracle社製品の四半期毎のアップデートが予定されており(Oracle製品については別途月毎のアップデートも出る可能性があります)、OSから重要なアプリケーションまで未更新なものがないよう注意し、併せて適用前の脆弱性への攻撃に対しアンチウイルス・UTM等による多重防御策をとるよう心掛けましょう。

10月の「Windows Update」は初の脆弱性4桁で過去最多を更新～Microsoftが2026年10月「Windows Update」を実施

「緊急」は76件、悪用確認は1件。「Windows 11 24H2 Home/Pro」は今回が最後の更新に

梅井 秀人 2026年10月14日 09:17



Microsoftは10月13日(現地時間)、すべてのサポート中バージョンのWindowsに対し月例のセキュリティ更新プログラムをリリースした(パッチチューズデー)。現在、「Windows Update」や「Microsoft Update カタログ」などから入手可能。

リリースノートによると、今月のリリースノートに記載されたMicrosoft製品のCVEは1,413件。先月の974件をさらに大きく上回り、初めて4桁に達した。